

薬学科 推薦図書

	タイトル	編著者	出版社	コメント (推薦の理由)
1	理系なら知っておきたい化学の基本ノート [有機化学編]	岡島光洋	中経出版	高校の内容を踏まえながら、大学で習い、「ものづくり」の現場で使う有機化学の根本原理が理解できる1冊。高校で習う化学を踏まえつつ、大学で履修する高度な内容へ自然に接続させるシリーズとして大好評の「理系なら知っておきたい」シリーズに、待望の「有機化学」がラインナップ。大学のテキストの難しさと分厚さにザセツした人でも十分読みこなせる、親切的なレベル設定。
2	理系なら知っておきたい化学の基本ノート [物理化学編]	岡島光洋	中経出版	大学受験予備校で指導する超人気講師が書いた、高校の内容を踏まえた上で大学の化学の「根本原理」が理解できる1冊。大学履修レベルの、ちょっと高度だけど、わかりやすいテキスト。
3	理系なら知っておきたい生物の基本ノート [生化学・分子生物学編]	伊藤和修	中経出版	理系なら知っておきたいシリーズ。全3章で、細胞生物学と遺伝学の入り口を丁寧に解説。ハイレベルな内容を、専門書のように身構えることなく楽しみながら読みすすめることができる1冊。
4	高校の生物が根本からわかる本 [細胞・代謝・発生・遺伝編]	藤井 恒	中経出版	この本を読めば、科学的・生物学的な思考法が身につくのはもちろん、高校時代に習った内容が当時よりもよくわかります。生物がキライだった方は得意になり、生物がもともと得意だった方はもっと好きになる……科学、ならびに生物に少しでも興味のある方すべてにおススメできる1冊です。
5	高校の化学が根本からわかる本 [理論化学編]	藤井 恒	中経出版	この本は、高校の化学の根本原理を、高校の教科書のような無味乾燥な記述ではなく、日常生活をもとにしたストーリーによって、丁寧に、そして、論理的に説明しています。高校時代に十分に化学を教わらなかった、また教わったけれどすっかり忘れてしまったという人が、理論化学分野の全範囲を復習できるテキストです。明朝かつ本質的な説明を読み、良問揃いの例題を解いていけば、当時は「ややこしい」としか感じなかった「化学」の面白さが味わえます！
6	有機化学が好きになる—"カメの甲"なんてこわくない! (新装版)	栃内新, 左巻健男	講談社(ブルーバックス)	有機化学ぎらいをなくす本! 有機化合物を利用して暮らしているのに、有機化学については「？」のまま。高校で挫折した人も、これから学ぶ人も、読めばきっと「！」になる。「輪ゴムはどうして伸びるの?」という子どもの頃の素朴な疑問に立ち返って、「カメの甲」を学び直そう。
7	新しい高校生物の教科書—現代人のための高校理科	栃内新, 左巻健男	講談社(ブルーバックス)	生命の成り立ちを「進化」という縦糸と生物の「生き方」という横糸を織り上げるように編集。動物と植物の共通性と多様性が、分子のレベル、細胞のレベルから個体の生き方のレベルへと展開しながら生き生きと書かれている。読んでわかるから面白い! 現代人に必須の科学的素養が身につく。
8	化学ってそういうこと!—夢が広がる分子の世界	桐村光太郎	化学同人	簡潔な文章とフルカラーの美しい図版の数々。化学の全体像を伝えることを目的とした本書は、何よりも分かりやすく編集されている。生き生きと

				した化学の魅力を伝える貴重な1冊。
9	「化学」は図に するだけで面白い	東京理科 大学化学 ブレイン	青春出版社	身のまわりのものはすべて化学製品です。身近にありすぎて、化学がすぐそこにあることに気がついていないだけなのです。本書は、「当たり前」で普段気がついていないことを皆さんと一緒に化学の目線で解いていきます。
10	がんというミステリー	宮田親平	文藝春秋 (文春新書)	近代医学にとってがんは謎のかたまりだった。一体何が原因か?なぜ増殖を続けるのか?医学者らは目の前の患者を救う一方で、その正体を知ろうと奮闘した。かくて臨床治療と病理研究が絡み合いつつ進展し、今、救命率は向上、謎の多くが解明されようとしている。その謎ときの百年余の歴史をたどった本書は、さながらミステリー小説を読むがごとくスリリングかつエキサイティング。
11	生活習慣病を防ぐ —健康寿命をめざして	香川靖雄	岩波書店 (岩波新書)	超高齢化社会を迎える21世紀、高血圧症、脳梗塞、心筋梗塞、糖尿病、骨粗鬆症、がんなど、生活習慣から起こる病気にかかわらずに健康な身体で天寿を全うするためには、どのようなことに注意すればよいのか。肥満や高血圧、高脂血を防ぐための具体的な食事や運動から、これらの病気の原因、遺伝子治療を含む最先端の治療法までを詳述する。
12	健康・老化・寿命 —一人といのちの文化誌	黒木登志夫	中央公論新社 (中公新書)	糖尿病、心臓病、がん、感染症—生命を脅かす疾患の解明は進み、治療法も進歩した。しかし寿命には限界がある。いったい何が寿命を決めるのか。人はなぜ太り、歳をとり、病気になるのか。本書は、がんと狭心症を体験した著者が、歴史と生物進化の視点から、遺伝子と病原微生物の狩人たちの人間ドラマを背景に描く。生と死をめぐる文学作品や映画の名場面が知的好奇心に彩りを添える。
13	新薬剤師になろう	松本邦洋	インデックス・コミュニケーションズ	この本は、「薬剤師」という国家資格について、どんな資格なのか、どうしたらなれるのか、どんな仕事があるのか、また給与は、などについて詳しく、そしてわかりやすい文章で書かれています。
14	薬のルーツ”生薬” -科学的だった薬草の 効能- (知りたい! サイエンス)	関水康彰	技術評論社	薬の元をたどれば90%以上は植物成分です。植物には生命を養う面と、毒の作用も備えています。この毒こそが、人体のしくみを解明し、有用な薬の開発に光明を与えました。本書では、「薬のルーツ」である「植物」がもつ「毒」と「薬」の効能・効果について、わかりやすく解説していきます。
15	ドキュメント 遺 伝子工学	生田 哲	PHP サイエ ンス・ワール ド新書	バイオテクノロジーは、現代の医療に不可欠な技術である。薬は、天然物から抽出したり、化学的に合成したりするだけでなく、遺伝子を利用して創り出す時代になった。最初の遺伝子組換え医薬品の登場の裏には、多くの研究者たちの熾烈な研究競争があった。そんな裏側を知ること、研究とはどういうものなのかを知ってほしい。
16	進化から見た病気	栃内 新	講談社ブル ーボックス	ヒトはどのように病気になるのか?なぜ、進化の過程で、全ての病気は克服できなかったのか?生物学者(進化学者)の目で見ること、私たちが病気として考えているものの多くは、進化の必然で

				あることに気付かされる。何が本当の治療に結びつくことなのか、視点を変えて考えることの重要性を知ってほしい。
17	サルファ剤、忘れられた奇跡	トーマス・ヘイガー	中央公論新社	サルファ剤は、それまでなす術のなかった細菌感染症に対して劇的な成果を挙げたが、数年後に登場したペニシリンの陰に隠れて人々の記憶から消えた。しかし、このサルファ剤開発の過程から、医薬品開発の仕組みや、医師や薬の役割自体がそれまでとは大きく変化した。この本から、現代の医薬品開発過程や薬剤治療の考え方がどのようにして生まれたのかを知ってほしい。
18	生物と無生物のあいだ	福岡伸一	講談社現代新書	目の前のある物体が「生物」であるのか「無生物」であるのか？普段何気なく判別しているが、その境界線とは一体何なのか？この問いに対して、分子生物学者である著者が独自の視点で明快に論じている。分子生物学的な内容を中心に書かれた本であるが、薬によって生命現象と対峙する薬剤師にとっても、生命の根幹とは何かを理解することは極めて重要であると思われる。
19	毒と薬のひみつ	齋藤勝裕	ソフトバンククリエイティブ	薬は適量を服用すれば治療効果が期待できても、たくさん飲むと毒に変身してしまいます。「毒とはなにか」、「薬とはなにか」、「薬になる毒」、「毒になる薬」など、歴史上の出来事も取り上げながら、毒と薬についてわかりやすく解説しています。
20	新・細胞を読むー「超」顕微鏡で見る生命の姿ー	山科正平	講談社ブルーバックス	生物の身体は、様々な働きと形を持った細胞によって構成されている。著者は、電子顕微鏡や原子力間顕微鏡など最先端の機器を駆使して、極微の世界を探訪し、細胞の姿を紹介する。迫力のある写真が、生命の単位である細胞の働きを考えさせてくれる。
21	「聞く力」心を開く35のヒント	阿川佐和子	文春新書	インタビューとしての経験を通して、著者の人と話す際の考え方を分かり易く提示しています。薬剤師のコミュニケーションで非常に大切な「聞く力」養成のための参考図書。薬剤師と患者や医療スタッフとのコミュニケーションの場面を想像しながら読んで欲しい。
22	生きているを見つめる医療ーゲノムでよみとく生命誌講座	中村桂子	講談社現代新書	生まれるー育つー暮らすー老いるー死ぬ、の5つの章から構成されており、人生のそれぞれのステージでの営みにある遺伝病、感染症、癌、痴ほうを、ゲノムを読み解くことで説明している。「生きている」を見つめることで、どう生きるかを考えさせられる一冊。
23	東日本大震災 石巻災害医療の全記録ー「最大被災地」を医療崩壊から救った医師の7カ月	石井 正	ブルーバックス	東日本大震災が起こったその時、災害現場にいた医療関係者たちは、一体どのような活躍をしていたのでしょうか。薬剤師になったあなたが、もし同じ現場にいたら。そういう気持ちで読んでみて下さい。
24	薬学教室へようこそ「いのちを守るクスリを知る旅」	二井将光	ブルーバックス	薬の研究から薬ができる創薬の過程から、医薬品としての薬の飲み方・副作用・代謝、さらには薬剤師の仕事まで、「クスリ」のすべてを知ることでできる本。薬学部を目指す人なら必ず読むべき薬学の入門書です。

